

市長記者会見記録

日時：2015年11月4日（水）午後2時～午後2時31分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：東南アジアでポートセールスを実施します。（港湾局）

<内容>

（東南アジアでポートセールスを実施します。）

司会： ただいまより、定例の市長記者会見を始めさせていただきます。

本日の議題は、「東南アジアでポートセールスを実施します。」となっております。

それでは、市長から、発表いたします。

市長、お願いいたします。

市長： こんにちは。よろしく申し上げます。

それでは、東南アジアへの訪問について、私から説明をさせていただきます。川崎港では、官民が一体となってポートセールスに取り組んでおりまして、平成26年のコンテナ取扱量が平成23年と比較して倍以上に増加するなど、市内経済に大きな効果をもたらしております。

川崎港のさらなる利用促進を図るため、日系企業の活発な投資が続く東南アジアを訪問し、川崎港と定期航路で結ばれている港の利用状況などを視察いたします。訪問地はベトナムのハノイ、ハノイ近郊の国際貿易港であるハイフォン港、世界トップクラスの港を有するシンガポールを予定しております。

今回の訪問では、川崎港を利用する荷主や物流企業と意見交換を行い、今後の東南アジアとの航路誘致や貨物の集荷につなげていくことや、シンガポールに立地する世界有数のライフサイエンス分野の研究開発拠点などを視察し、キングスカイフロントでの取組に生かしてまいりたいと考えております。

私からは以上です。

司会： ありがとうございました。

それでは、質疑応答に入ります。

それでは、進行は幹事社さん、お願いいたします。

幹事社： ありがとうございます。ポートセールスで市長はじめ協議会が現地に行くのは、これが初めてですか。それとも、過去にもあるのでしょうか。

市長： 市長として、私は初めてになります。

幹事社： 協議会としては何回かあるんですか。

市長： 協議会で行っていただいたということありますね、ポートセールスに。はい。たしかそれでよろしかったですね。

港湾局長： はい。

幹事社： 市長のお考えとして、川崎の貨物取扱量が増えている理由とといいますか、強みみたいなのところがあれば。

市長： 川崎の特長を生かしたポートセールスというのをこれまで取り組んできて、それが確実に実を結んでいるところだと思います。特に冷蔵・冷凍のところをはじめですね。

それから、コンテナが伸びている東南アジア、このところにしっかりとターゲットを当てて、これまでポートセールスをやってきた、その成果が結びついてきているのではないかなと思っています。

幹事社： 現地に行かれて、さらにこういうところをアピールしたいというのがもしおありでしたらば。

市長： そうですね。やはり東京など非常に混雑している港に比べて、川崎は非常に定時性が高いというところでも評判でありますので、そういったところ、特に東南アジアは強いところですから、この強みをさらに荷主さんにお伝えして、さらなる航路につなげていきたいと思っています。

幹事社： じゃ、各社、お願いします。

記者： すいません。市長がこの東南アジアのポートセールスを展開するに当たって、課題等があれば、ちょっと教えていただきたいんですけど。

市長： 課題ですか。課題といいますか、今、課題を抱えているというよりも、これからつなげていく話でありますので、特に川崎の企業も、今、ご利用いただいている大手の荷主さんなんかも、これからさらに東南アジアでの生産というものを拡大していく予定というところもあると。その企業の1つにも行くわけでありませけれども、そういったところをどれだけ私どもが取って来られるかと、つなげていけるかということになっていると思いますので、そここのところに力を入れて行ってきたいと思っています。

記者： わかりました。これはやっぱり分野で言うとどういう、今、企業さんもありますか。

市長： 1つ、訪問するところは、ニトリさんに行ってきますが、ニトリさんはベトナムでの生産活動というのをかなり強めて、さらに、本格化すると伺っておりますの

で、その取扱量というのは川崎の中でもかなりのシェアを占めていますので、そういったところを、これから増設されるどころ、工場をさらに大きくされるというふうに聞いていますので、何とか川崎へと呼び込みたいなと思っております。

記者： わかりました。

記者： 市の港湾計画を拝見しますと、平成30年代の後半には40万TEUというかなり高い目標を掲げておられるんですけども、どんな感じでそこにつなげていこうかという、そういう道筋というかはどういうふうな感じで描いておられるでしょうか。

市長： そうですね。非常に高いということではありますけれども、実際に今年は前年比、比べて上半期で4割増、昨年の上半期と比べて増えていますので、これまでかなり増やしてきた、今も増えているというものをさらに強化して、目標達成につなげていきたいなと思っています。

記者： 川崎港が一番意識をしているライバルとなるような港というのは何か、市長の中にあるのかということと、あと、川崎港が今後発展していくために、国に対してこういうサポートをしてほしいみたいなのがあるならば。

市長： 川崎の強みというか、東京と横浜とはやはりサイズ感が相当違いますので、ポートセールスの形にしても、やり方が違うわけです。そういう意味では、先ほども少し申し上げましたけれども、冷蔵・冷凍のところが強いか、東南アジアのところが強いかということというのは、まさにこれからさらに広がる分野、国々と分野であると思っていますので、そこのところをしっかりと強化していこうと思っております。

国のほうとは、常日ごろから様々な連携をとらせていただいていますので、様々な要望にもお応えいただいていると思いますので、それをしっかりとやっていだけで、それこそ、今、東扇島水江町線のインフラの話もそうですけれども、あるいは耐震岸壁の話だとか、荷が入ってきてもちゃんと受け入れられるだけのバックヤードをちゃんと整えておくということがお客様に対する責任でもありますし、そういうことを国のご協力もいただきながらやっていきたいと思っています。

司会： ほかはよろしいですか。では、本件につきましては、これで終了させていただきます。関係者が退室いたします。

《市政一般》

《旭化成建材が施行した杭打ち工事について》

司会： 続きまして、市政一般となります。進行は幹事社さんよろしく申し上げます。

幹事社： こちら引き続きお願いします。市政一般で、旭化成建材の問題、全国でもう発覚してしまっていますが、川崎市関係、関与しているのが12件というふうに、今、調査されていると思いますが、その進行状況と、それから、現状で問題があるところ、例えば流用、改ざん、そういうものが出てきているのか、それとも、今のところ、全くないのか。

市長： まず、状況といたしましては、11月2日までの段階で、12件のものについては現地調査を行っておりまして、傾きですとか、ひび割れみたいなクラックと言われるものに対して確認をしております、それについては問題ないという報告を受けております。

このデータ改ざんだとかがあるか、なしやということについても、今、元請さんとの共同作業になりますけれども、こういったところで今、調査を進めているという現状になります。

幹事社： 13日と会社のほうは言っていますけれども、川崎市独自の調査、協力として何日ぐらいまでにこのめど、調査を終わらせたいと。

市長： なるべく早くやりたいとは思っているんですが、いわゆる私どもだけではわからない部分というのは、やっぱり元請が持っているデータなどとダブルチェックしていくという作業ですので、もう若干時間がかかるかなという報告は受けております。

幹事社： じゃ、各社、お願いします。

幹事社： すいません。今の旭化成建材で、傾きとか、ひび割れは問題ないというのは、もう少し詳しく、どういう調査をしたのか、その項目とかを教えてくださいか。

市長： それについては、方法などは事務方からでもよろしいでしょうか。

幹事社： はい。

まちづくり局施設整備部担当課長： まち局施設整備部でございます。目視、ひび割れについては、目視の調査を全体にわたって回りまして、傾きについても、目視の範囲ですが、見ております。以上でございます。

幹事社： それとデータ改ざんは調査中ということですが、進行状況について、できるだけ詳しく教えてほしいんですが。

市長： 進行状況については、今やっているということで、今、何件終わっているとか、そういう状況で発表する状況ではないということです。

幹事社： いつぐらいめどに終わりそうですか。

市長： 今申し上げたとおり、1件1件調べているということですので、なるべく早

くという形で、まだめどというふうなのが申し上げられるタイミングではないんです。

幹事社： これはある程度調査が終わったら、公表というのはどのような形で、どこまで考えているんですか。

市長： 安全性にかかわる問題ですから、安全に問題があれば、もちろん公表しなければならないと思いますし、問題ないのであれば、しっかりと問題ないと言わなくちゃいけないですし、ただ、いたずらに不安をあおるような公表だけは避けたいと思っています。

幹事社： 個別の名称の公表については、どのような考えですか。

市長： その調査結果の結果によってだと思います。どういう結果が出てくるか、まだちょっとわかりかねますので、それを見て判断ということになると思います。

記者： 今、市長がおっしゃった公表のところで、いたずらに不安をあおるような公表だけは避けたいということなんですけれども、例えば今回、公共施設ということで、横浜市さんや何かだと学校が対象物に入ったり、それから、ほかのところでも市営住宅、道営住宅だったりすることがあります。

今回、ご案内のように、改ざんが当初、都筑区のマンションだけの人だと思われていたのが相当な範囲に広がってきて、調査が終わるめどがついてないということであるならば、施設名を公表した上で、つまり、不特定多数の人、さらに学校だったら子どもとか、福祉施設も市にありますから、弱者が集まるところであって、そういうのは施設名を公表した上で、いつ、お尻を決めて、市としてきちんと調査をしますという具合にやったほうが市民に対して不安を抱かせないようになると思うんですけれども、今、結果として、ずっと後になって、いや、実はデータ改ざんしてました、危険でしたということがわかったら、その間、その人たちはずっと危険な状態を知らされないままいることになるわけですから、これはちょっと違うのかなという気がするんですけれども。

市長： 国のほうでも今、議論されていると、今日も何か部会が立ち上がったと聞いていますが、いわゆるデータ改ざんイコール全て杭が打ててないかということとはちょっと別問題で考えなくちゃいけないんだという専門部会の先生なんかのお話もあって、ですから、安全性というものを、これは何が大事かと言ったら安全性の問題ですから、そこをしっかりと適切に対応できるような形にして、しっかり公開していかななくちゃいけないなどは思っていますけど。

例えばこれこれですと、特に問題ありませんけど、こうでしたというふうな形で、ただ何もしないで、ただ公開する、公表するというふうな形というのは、今、何もま

だ出てきてませんから、たらねばの話をしてもちよつとしようがないんで、あれなんですけれども……。

記者： 市長、そうではなくて、現段階で少なくとも12件の公共施設が旭化成建材にかかわったことがわかっているわけですね。データを調べるので時間がかかるのはしょうがないというか、そのとおりだと思うんですけれども、ただ、この段階でこの12件がデータ改ざんをしていた、旭化成建材がやっていたということを公表した上で、安全性はあわせて調べますという具合に言ったほうがむしろ市民の不安をおおらないんじゃないかと思うんですけど。

市長： それは、データ改ざんがあっても、なかろうが、今のその12件は全部公表しろというふうな……。

記者： そうです。

市長： おっしゃり方ですか。

記者： はい。

市長： あっ、そうですか。私はそういうふうには思っておりません。

記者： 市長がおっしゃるように、データ改ざんがイコールくい打っていないというわけではないですし、さらに旭化成建材がやったから耐震性が問題になるというわけでもないと思うんです。それは市民の方々もよくわかっていると思うんです。だから、この段階で12件の施設名を公表したとしても、別に、市民の方々には賢明でいらっしゃるから、不安は覚えなないと思うんですけれども……。

市長： そうでしょうか。

記者： 違いますか。

市長： 例えば記者がお住まいになっているマンションがその施設ですと。でも、安全性がその数字もわかりません、データ改ざんされているかもわかりませんといったときに、はいと言われたときに、むしろ不安に思われませんか。どうなっているんだというふうに思われませんか。たとえそれが施工がちゃんとしていたとしても、そう言われることに対して不安に思われませんか。

記者： でも、それはセットで。

市長： ですから、今、段階を追ってやっているというふうに申し上げているのは、今、まず目視でもって、大丈夫か、安全性が、クラックはないか、傾きはないかというのをチェックさせていただいて、次の段階で、今、元請とも共同してダブルチェックを加えながら、データ改ざんがあったか、ないかというものを調べていてというふうな形で、段階を追ってやっていますということです。

記者： じゃ、そのところは多分、意見が食い違うんで、例えば仮にデータ改ざん等が見つかった場合というのは、それは施設名も含めて公表するという事なんですか。

市長： そういうことになると思いますね。

記者： 横浜市は当初、市立学校という公表の仕方しかしていなくて、非常に問題になって、翌日になってから具体的な名前を公表したんですけども、川崎市においては、データ改ざんがもしあった場合には、それは具体的な施設名まで公表して、あわせて対応の方針についても発表するんですか。

市長： あわせて対応方針、もしあった場合は、その対応方針はしっかりと示してからお話ししないと、速やかにそれをやらないと、お考えは違うかもしれませんが、ただ不安になるだけだと。安全対策も何も示されないという中で、ただ、あなたのところはデータ改ざんありましたよと言われても、それは住んでいる方たちはますます不安になると思いますね。

記者： わかりました。

(民泊について)

記者： お隣の大田区が国家戦略特区として民泊が認められ、また、大阪では条例制定を検討しているようなんですけど、観光庁と厚労省が個人宅を観光客に貸す民泊を検討していることについて、市長はどのように思われるかと、川崎は今後、どのように考えていくのかというのをちょっとお聞かせいただければと思います。

市長： そうですね。今、民泊について、お話があった大田区だとか、大阪府のほうで、条例がもう成立したというふうなことを聞いて、大阪府のほうですね。聞いていますので、本当にルール自体がないということについては、私も問題意識を持っておりますので、検討は必要だと思っています。

一方で、報道もされているとおり、大阪府の場合は、7泊……。

記者： 6泊7日ですね。

市長： 6泊7日が条例の対象になっているということで、果たしてそうかなと。そんな6泊も続けて泊まる人いる？ というのが率直、私の感想でして、しかし、実態は調べてみないといけないなど。実際はそういう民泊をルールなきところでやっている実態があるということをしつかりと調べて、ルールはつくらなくてはならないなどは思っています。

記者： ありがとうございます。

記者： すいません。その絡みなんですけど、6泊7日というのは多分、国家戦略の法律で7日から14日の間で決めろというような、個々、検討されている自治体自身が決めていいですよということ。そうすると、ちょっと法的にあまり実情と合っていないというようなご認識……。

市長： そうかもしれないですね。ちょっと私もしっかり勉強させていただきますけれども。

(川崎区日進町簡易宿泊所火災について)

記者： 市長、もう一つ。すいません。全然話題は変わるんですけども、簡易宿泊所の火災が5月17日にあって、次の定例会見がその後になってしまうんで、半年の直近の定例会見ということでお伺いしますけれども、川崎市としては、オール市役所でこの問題に取り組んでいくということで、取組をずっと進めていました。補正でもお金をつけて、転居支援を行っています。今のところ、大体どれぐらいの方々の転居支援が進んで、かつ、違法建築物が相当数見つかったんですが、これがどれぐらいは正されているか。

あと、今後、市長、どういう具合にこの問題を進めていかれようとするか。というのも、寒くなってくるとお年寄りの方々、ちょっとしんどそうですし、今のうちにやっておいたほうがいいのかと思うんですが、いかがでしょうか。

市長： まず、どれぐらい民間アパートなどに移り住んでいるかというのは、大体40件を超えて民間アパートに移られたと聞いています。今、24件の是正しなければならない棟がある中で、そのうち完全に是正されたのが3件と聞いています。それから、建てかえのほうは1件と、それから、是正計画書を提出していただくことになっていますが、それが17件、トータル24件のうち、21件は何らかの対応をさせていただいているということでありまして、そういう報告を受けています。

引き続き今、健康福祉局と一緒に、移り住む、是正のことはしっかり是正していただく。そして、民間アパートに移っていただく取組というのは健康福祉局と一緒にやっていくという形で連携をとって、これからもやっていきたいなと思っています。

記者： なかなか難しい問題ではなくて、長期的な課題、中長期的な課題として、市長は単身高齢者の住居の問題というのも考えていかなければならないなという趣旨の話がされていたと思うんですが、ご案内のように、川崎市は2030年まで人口が伸びる一方で、この先、急速に高齢化が進んでいって、いつまでも若いまちでいられる

わけではないということで、この先の中長期的な展望として、単身高齢者の問題、地域包括ケア、今、一生懸命やっていると思いますし、それと絡んでくるとも思うんですけれども、どういう具合、あるべき未来像、単身の高齢者。高齢者が増え、特に単身高齢者が増える中でどういう川崎の未来像を描かれているのでしょうか。

市長： これは非常に大きな課題でして、本当に一言で言いあらわせないぐらいなんですけれども、今の簡易宿泊所の話というふうなのは、今の法律的な是正をすることと、それから転居支援というふうなことは、これはこれでしっかりやっていかなくちゃいけないんですが、今、記者がおっしゃるように、もっと全体の単身高齢者政策について、どうしていくのかというのは、もっと総合的に考えていかなくちゃいけない、多様な住み方を考えていかなくちゃいけないと思うんです。

ですから、いわゆる高齢者住宅というものとか、国でも色々な制度がありますけれども、そういうものをしっかりやっていかなくちゃいけないんですが、それもこの前からと同じような話で、どうやって行政として管理を、監督というか、そういうことができていくのかというのをしっかり整えていかないと、ただ、サービスだけはできる、住宅はできるけれども、野放しということになりかねないので、それはもう少し、本当に喫緊な課題ではありますけれども、十二分に議論していかないといけないなという課題だとは認識しています。

記者： お金もかかりますね。一方で、予算を見ても、扶助費の増加というのがずっとこの先も増えていって、それが行革の効果を相殺しているというぐあいな説明だったりするんですけれども、ここをそのまま伸びるのはしようがないとしても、どれだけ伸びても大丈夫というわけではないと思うんですが、予算的な面から見て、こういうところを措置していかなければならないと思うんですけれども、市でできることと、それから、あと国に求めなければならないこと、今後、市でできることはご検討されていくということですけど、国に対してどういうご要望というか、こうあってほしいみたいなことを求めていかれようと思っているのでしょうか。

市長： 国に対してですか。国に対しては、これだけを捉えて言うのも、非常に高齢者全体をどうしていくかみたいな、すごく大きな話なので、何か1つで、要望でということは、ちょっと今、ぱつと言うことではないんですが、それにしても、今後の総合計画の中でもお示ししていきますけれども、どうやって要支援、要介護に至らないように健康寿命を延ばしていくかという、極めて予防的なことをどうやって市として市民の皆さんと一緒にやっていくかということが何よりも重要になってくると思います。

ただ、単純に高齢者が増えたから施設も足りない、何も足りないと言っていたら、それこそおっしゃるように破綻しますし、何よりも高齢者が一番つらいということに置かれますので、そうはならないようにという取組を重点的にこれからやっていかなくちやいけないんじゃないかなと思っています。

記者： ありがとうございます。

（幸区幸町老人ホームの事故について）

記者： すいません。1つ、私から見て、まず、Sアミーユの関係で、監査に入ってから、市としては行政処分ということをやっているんですけど、そのスケジュールについてはいかがなんでしょうか。それとも、処分されないんですか。

市長： いや、この前、申し上げたと思いますが、処分についてはしっかり検討していくということになっていまして、……。まさに処分内容について、今、もろもろ検討しているところであります。いつごろになるかというのは、もう少しお時間をいただきたいなと思っていますが。

（市長就任2周年について）

記者： わかりました。あと、市長がもう、今年、すごい1年、大変だと思うんですけども、折り返しになったということで、まず、その所感をちょっといただければと思ったんですけど。

市長： 早いですね。次の会見っていつでしたっけ。

司会： 19です。

市長： 19がちょうど折り返しの日なんで、また、そのときに改めて申し上げたいと思いますが。

記者： 議会の関係で何か色々聞くかなと思って、ちょっと。

市長： そうですね。

記者： わかりました。じゃ、次回で大丈夫です。

（カワサキハロウィンについて）

記者： もう一つ、明るい話題で。カワサキハロウィン、大盛況で、市長もジェダイの格好をなさってお似合いだったと思うんですが、ああいうふうに川崎らしいハロウィンがすごく育ってきたことの理由と、それから、あと、今後、ハロウィンに限らず、川崎は楽しい面がいっぱいあるんですけども、市全体を盛り上げていくために、ど

ういう具合に全体のそういうイベントとかを考えていくか。

それから、あと、こうしたことを、カワサキハロウィンは今、非常に知名度が高い川崎のイベントになっていますが、発信していくに当たって、どういうぐあいに発信していくことが一番いいと思われるか。これだけ育ってきたんで、これを機会にして、ぜひ市長のお考えを。

市長： 今回、19回目で、来年20回という節目のことを迎えますけれども、今回、改めて、やはり1回目からやってきた方とかに色々お話を伺うと、決して平坦な道りではなかった。ですけど、結局、成功のキーとなったのは、まさにまちぐるみというか、複数あった商店街が1つになっていきとか、協力してやるようになったとか、あるいはチッタさんが盛り上げてとか、あるいは本当にエリア一帯がみんなで協力していくということができたことが成功の秘訣だったと思います。

ですから、単にどこかの主体が1つやったとしても、それは盛り上がりには欠けるといって、まち全体でハロウィンにならないということですから、今回は、今回はというか、毎年毎年、こうやって成功になってきて、大きくなってきているというのも、この19年間の積み上げ、そして、色々な人たちの協力があつたお陰でこれだけ大きな取組になったんじゃないかなと思っていますので、それが川崎らしいと。ほかの都市のハロウィンパーティーにはない、まち一帯のハロウィンにつながっているんじゃないかなと思いますので、これをしっかりと維持していけば、さらに日本だけじゃなく、世界へ向けて発信できるイベントになるだろうなと思います。

記者： まさにもう一つは、今のことの関連ですけど、まさに市長が常々おっしゃっている市民力の結実したものだと思うんですが、ほかの地域とか、ほかのところでも楽しいイベントはいっぱいやっているんですけれども、川崎のイベントは何？ と言ったときに、今はカワサキハロウィンが頭1つ抜きん出ている感じがするんですが、ほかのところでもこういう同じようなイベントを育てていくために、とりわけ市長ご出身の北部のほうだとなかなか難しいのかなとか思ったりもするんですが、何か市民力を高めていく方策というか、やり方という何か考えがありますでしょうか。

市長： ほかでは、民家園のところで行われるお祭りなんかも、色々な多様な主体とかが集まって盛り上げてきているということもありますので、決して川崎南部の駅前周辺だけが盛り上がっているわけじゃなくて、やはり北部、南部、中部、それぞれに市民力が発揮できているのではないかなと。それも、そのまちの色を持ってですね。ですから、カワサキハロウィンを例えば登戸でやるかといったら、そうではないと思いますし、一方で、この前、先週ですか、行ってきた「しんゆりマルシェ」なんてい

うのは、まだ2回目ですけれども、ものすごい大学生と、11大学集まっていたと思います。ものすごく大学生と地域住民の方と、それと商店街というのがコラボレーションして、全く、ほとんど行政がかかわっていない。県からの補助金が出ているとは言っていましたけれども、こういった商店街活性化のちょっとしたお金を使って何倍もの効果を生むという、あそこは新百合ヶ丘らしいマルシェになっていくと思いますし、非常に多世代の交流になっていたと思いますね。

記者： ありがとうございます。

(旭化成建材が施行した杭打ち工事について)

幹事社： 旭化成建材の確認ですけど、先程のやりとりでおっしゃった、データの改ざんがあれば施設名を安全対策もセットに公表するという、そういうお考えでよろしいんですか。

市長： そうですね。もしそれがあったとしての話ですけれども、あった場合には安全対策とともに公表しなければならないと思っています。

幹事社： わかりました。

司会： ほかはよろしいでしょうか。よろしいですか。

それでは、以上をもちまして、市長記者会見、終了させていただきます。ありがとうございました。

市長： ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355